

かがわ文化芸術祭2014参加公演

高松交響楽団

第113回定期演奏会

2014 10.19 日 開演 14:00

香川県県民ホール[アルファあなぶきホール]大ホール

ベートーヴェン×チャイコフスキー

～壮大なる音の構築～

～雄大なる調べ～



主催／高松交響楽団(TSO)
共催／かがわ文化芸術祭実行委員会、
(公財)置県百年記念香川県文化芸術振興財団、香川県
協力／高松国際ピアノコンクール組織委員会



指揮 平井 秀明 *Hideaki Hirai*

米国ロチェスター大学政治学科卒業。第6回フラデッツ・クラロベ国際指揮者コンクールで第1位。2000年、ヤナーチェク・フィル定演にデビュー。東フィルをはじめ、殆どの国内主要オケに度々客演する一方、新国立劇場では「フィガロの結婚」ほかを指揮して絶賛された。自作オペラ三部作の「かぐや姫」、「小町百年の恋」、「白狐」はザルツブルクなど内外で30回以上再演を重ね、常に大きな話題を呼んでいる。2010年、チェコ・ヴィルトゥオージ室内管の首席客演指揮者に就任し、チェコ国立ブルノ歌劇場モーツァルト・ホール定演を指揮するほか、2012年、ウィーン国立歌劇場にデビュー、2013年にも同歌劇場に再登壇して圧倒的成功を収め、同年12月カーネギーホールにて鮮やかなデビューを飾り、直ちに2014-15シーズンより、ニューヨーク祝祭管弦楽団の音楽監督に就任が決定。2014年、名門ソフィア・シンフォニエッタにデビューし大成功を収めるなど、国際的に活躍している。また、かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ (KJO) の指揮者陣を務めている。http://www.hideaki-hirai.com



ピアノ アンナ・ツイブレヴァ *Anna Tcybuleva*

【第3回 TIPC 高松国際ピアノコンクール4位】

ウクライナ出身。母スヴェトラナ女史にピアノの手ほどきを受け、シヨスタコヴィチ音楽院にてH. ヴォロビオワ氏に、モスクワ中央音楽学校在学中よりL. ロスチナ氏に師事。数々のソロリサイタルを精力的に開催するほか、ロストフ交響楽団、サラトフ交響楽団、ヴォルゴグラード・フィルハーモニック管弦楽団、オデッサ・フィルハーモニック管弦楽団等、ロシアの主要楽団と共演。日本国内においても、2012年に井上道義指揮東京都交響楽団と共演。コンクールにおいては、第3回 TIPC を初め、2008年セレブリャコフ国際ピアノコンクール1位、2011年イブラ国際ピアノコンクール最高位、2012年第5回エミールギレリス国際コンクール1位等、数々の国際コンクールで上位入賞を重ね、大いに期待されるピアニスト。現在、モスクワ音楽院在学中。



コンサートマスター 福崎至佐子 *Hisako Fukuzaki*

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。ヴァイオリンを故 神崎初美、故 巖本眞理、故 岩崎洋三、ボヤン・レチュフ、徳永二男に、室内楽を故 ルイ・グラーラーの各氏に師事。日本フィルハーモニー交響楽団を経て1972年、新日本フィルハーモニー交響楽団アシスタントコンサートマスターに就任。コンサートマスターのルイ・グラーラー氏と弦楽四重奏を組みTV、FM東京、CM、映画音楽、レコーディングに活躍する。1985年、高松に帰郷し、ゴールドブレンドコンサート、四国二期会オペラ、四国学院大学メサイア演奏会などでコンサートマスターをつとめる。現在、高松大学発達科学部教授。香川大学教育学部講師。かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ (KJO) 音楽監督。高松交響楽団常任コンサートマスター。新日本フィルハーモニー交響楽団団友。日本演奏連盟会員。日本クラシック音楽コンクール・全四国音楽コンクール・山陽学生音楽コンクール等審査員。平成13年度「香川県教育文化功労者表彰」、第42回「四国新聞文化賞」、平成16年度「香川県文化功労者表彰」受賞、第67回「山陽新聞賞 (文化功労)」受賞。平成21年度地域文化功労者文部科学大臣賞受賞。第20回 (2011年) 第23回 (2014年) 日本クラシック音楽協会優秀指導者賞受賞。

管弦楽 高松交響楽団 *Takamatsu Symphony Orchestra*



1951 (昭和26) 年8月、故 緒方益園氏が県内の有志を募って創立。同年11月香川県公会堂において第1回定期演奏会を開催し、高松に初めてオーケストラの灯を燈す。爾來、半世紀以上に亘る活動を続け、2011年に創立60周年を迎えた。これまで100回を超える定期演奏会をはじめ、県内外での特別演奏会、青少年を対象にした音楽教室の実施、香川県県民ホール開館20周年記念オペラ「蝶々夫人」全幕公演 (2008年)、サンポートホール高松開館5周年記念「カルミナ・ブラーナ (パレエ付き)」公演 (2009年)をはじめ、オペラ・バレエ等の他団体や地元音楽家との共演など地域に深く根ざした幅広い活動を積み重ねている。2001年に迎えた創立50周年を機に新たな半世紀に向けた取り組みとして、高響団員を中心に新たに編成された「コレギウム・ムジクム高松」、「高松オペラシティ・オーケストラ」などの多面的なオーケストラ活動を展開している。さらには2001年より香川県の主催事業となった「かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ (KJO)」2003年1月に設立された「丸亀シティフィルハーモニックオーケストラ (MCO)」への演奏・運営面での全面協力など、地域音楽文化の核ともいえる重要な役割を担う香川のマスター・オーケストラとして様々な取り組みを行っている。1987年、地方文化の発展に大きく貢献した功績から音楽団体として四国で初めての「地域文化功労者表彰」を文部大臣より受賞。2008年、香川県より栄えある第1回「文化芸術選奨」を受賞。現在、オーケストラの団員数は、約150名。

皆様、ようこそお越し下さいました。

今回の定期演奏会では、極上の旋律美を誇るメロディメーカー・チャイコフスキー、そして、気高い精神性と造形美を誇る楽聖ベートーヴェン、2人の大家の名曲を演奏します。

指揮者には、指揮・作曲活動で国内外で楽壇の注目を集め、香川県においもかがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラの指揮者陣を務める平井秀明氏をお迎えし、ピアノ協奏曲のソリストには、チャイコフスキーのご当地でもあるロシアを拠点に活動され、今年3月に開催された第3回高松国際ピアノコンクールにおいて4位入賞を果たした才媛アンナ・ツイブレヴァさんをお迎えしました。

「クラシック音楽の王道」ともいえる名曲を、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

Program

プログラム

幻想序曲「ロミオとジュリエット」(P.I.チャイコフスキー)

チャイコフスキー 29歳の時の作品で、彼の最初期の傑作です。

題材となった物語は、今年生誕450年を迎えた文豪、シェイクスピアの言わずと知れた代表作ですが、そのあらすじは、「敵対するモンタギュー家とキャピュレット家にそれぞれ生まれたロミオとジュリエットがふとしたことから相愛の仲となるが、この二人に好意をもつ僧侶ロレンスの尽力もむなしく、非業の死を遂げる」という、悲恋物語です。

曲は、荘重な序奏からはじまりますが、これは、慈悲深い「ロレンス」の主題です。段々高揚し、ロレンスが何かを警告するな雰囲気になります。やがて、テンポを速めて、「戦い」の主題が出てきます。最初は、両家の小競り合いと言った感じですが、剣を打ち交わす様な描写を経て、だんだんと大きな争いになっていきます。続いてイングリッシュホルンとヴァイオラが奏でるのが、ロミオとジュリエットの「愛」の主題です。「ロレンス」「戦い」「愛」それぞれの主題が、どんどんと情熱を帯びて展開しますが、ティンパニの猛打と共に大崩壊し、2人の死が表現されます。愛の主題が、悲しむように、そして、2人の魂が天に昇って行くように神々しく奏され、幕切れとなります。



P.I. チャイコフスキー
(1840 ~ 1893)

ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 (P.I.チャイコフスキー)

この曲も、チャイコフスキー 34歳と若い時期の作品ですが、すべての協奏曲の中でも、もっとも知名度と人気の高い曲の一つといえるでしょう。この曲が持つ、豪華絢爛な雰囲気、美しすぎるメロディは、チャイコフスキーならではのものです。そんなこの曲ですが、その誕生にあたっては受難がありました。友人のピアニスト、ルビンシテインに初演してもらおうと試奏すると「陳腐、不細工、役立たず、貧弱、演奏不能。ほとんど全てを俺の言うとお書き直すべきだ。」と信じられない言葉を受けたのです。しかし、この曲に磐石の自信があったチャイコフスキーは「1音も書き直すのか!」と言い放ち、別の初演者探しに奔走し、ドイツのピアニスト・大指揮者のハンス・フォン・ビューローによって、ようやく初演にこぎつけ、「独創的で高貴な音楽」と認められたのです。ルビンシテインに見せた時点でチャイコフスキーの心が折れていたなら、きっとこの曲は世に知られることなく終わっていたでしょう。

第1楽章 Allegro non troppo e molto maestoso - Allegro con spirito たくましいホルンの吹奏に続き、ピアノの力強い和音に乗って、弦楽器が大河の様に歌う冒頭部分は、この曲の代名詞とも言えるほど有名ですが、実はこの部分は単なる「序奏」であり、序奏を終えると二度と出てきません。こんな素敵なメロディを序奏の為だけに使うというのは、なんとも贅沢です。今風に言えば「つかみはOK」といったところでしょうか。やがて、金管楽器のコラールが厳かに本編の開始を告げます。本編も、序奏に負けず劣らず魅力ある起伏の大きい音楽です。まず、ミステリアスな雰囲気になり、ウクライナ民謡に基づく、せわしない第1主題をピアノが奏でます。第2主題は、クラリネットが優雅に奏でます。独奏者のカデンツァの部分は長大な凝ったものです。そこでは、両主題を、ある時は可愛らしく、ある時は華麗にと様々に展開していき、最後は雄大な雰囲気結びます。実にこの楽章だけで全曲の半分もある豪勢な楽章です。

第2楽章 Andantino semplice - Prestissimo - Quasi Andante 弦楽器のピチカートにシンプルな伴奏に乗ってフルートが牧歌のような叙情的なメロディを奏で、ピアノがこのメロディを引き継ぎます。中間部のおどけるような感じの音楽は、フランスのシャンソン「さあ、楽しく踊って笑わなくては」に基づくものです。再度、最初の部分が戻ってきて静かな雰囲気楽章を閉じます。

第3楽章 Allegro con fuoco 突然のティンパニの1発で始まり、武骨な主題が激しく現れ、ピアノの華麗な技巧が駆使されます。つぎに弦楽器による歌謡風の美しいメロディの第2主題が現れます。これらの主題が対等に渡り合いながら音楽は進み、第2主題のうねる様な全合奏、そして、第1主題の豪快な全合奏を経て、華々しく全曲を終えます。

交響曲第5番 ハ短調「運命」 (L.v.ベートーヴェン)

楽聖ベートーヴェンが残した「不滅の金字塔」と言われる9曲の交響曲。それぞれに特筆すべき持ち味がありますが、本日演奏する第5番の特筆すべき点は「凝縮の美」にあるという事ができるでしょう。ベートーヴェンは、この曲において、たった一つのシンプルな音形（音楽用語で「動機」という）を用い、第1楽章では、それを徹底的に積み上げるという手法で音楽を作りました。その後が続く全ての楽章でも、要所要所にその音形を用いることで、凝縮された統一感を生み出しているのです。

特筆すべき点は他にもたくさんあります。例えば、オーケストラの様に楽器のみで演奏される音楽では、言葉を発する事ができません。言葉がありませんから、当然物語もありません。しかし、ベートーヴェンは、言葉無しに音楽だけで「暗から明へ」という物語を構築したのです。ベートーヴェンがそう口で説明したわけではありません。言葉がなくとも、誰が聴いてもそういうイメージを想起させる音楽なのです。この曲の、悲壮な第1楽章はどなたもよくご存知と思いますが、終楽章まで聴き通したとき、心地よい興奮とともに晴れやかな気持ちになることでしょう。



L.v.ベートーヴェン
(1770 - 1827)

第1楽章 Allegro con brio 日本では俗に「ダダダダーン」と形容されるあまりにも有名な出だし。これが「運命の動機」です。極めてシンプルかつインパクト抜群のこの動機は、一気に聴衆を緊張感の中に引きこむことでしょう。そして、この動機が楽章全体を構築していきます。出だしに続いて静かに出てくる第1主題は、運命の動機を、2ndヴァイオリン、ヴィオラ、1stヴァイオリンの順で奏でているものに他なりません。一息ついたところで、ホルンの呼びかけで優しい第2主題も出てきますが、ホルンの呼びかけは運命の動機ですし、第2主題の伴奏をするのも運命の動機です。楽譜を見ると分かる事ですが、第1楽章は大部分が運命の動機で埋め尽くされた極めて整然としたものになっています。そんな造形の見事さはもちろん、悲壮感の中から強い意志の力をも放散させる素晴らしい楽章です。

第2楽章 Andante con moto 初めの楽章は緊張感に満ちた濃密な音楽でしたが、この楽章では安らぎの世界へと聴衆を誘います。冒頭、ヴィオラとチェロが奏でる温かいテーマに基づく変奏曲です。途中、何度も鳴り渡るトランペットは凱歌のようでもあります。一聴しただけだと、安らぎの音楽あるいは勝利の音楽にも聴こえますが、実はどこどこで運命の動機が隠し味の様に鳴っています。このことが、前楽章の悲壮感の余韻を引き出します。いずれにせよ、本当の安らぎ、本当の勝利が訪れるのはこの楽章ではない様です。安らぎの中に少しの苦悩があり、明るさの中に少しの切なさがある。そんな不思議な楽章です。

第3楽章 Allegro. attacca チェロとコントラバスがうめくような不気味な音形を奏し不安に包まれます。その後、ホルンが厳しい雰囲気をもった行進曲を吹奏しますが、それは「ダダダダーン」と始まります。そう。運命の動機に基づくものです。それが途絶えたところで、突然、コントラバスがドタドタと走り回るようなテーマを奏しはじめ、それは管弦楽全体へと広がっていき、不気味な前段と鮮やかな対照を為します。後世の作曲家が「象のダンス」とも呼んだこの部分は、純粋に楽しい音楽です。再び冒頭にもどった時には、疲れ果てた様に一切の覇気を失ってしまい、暗黒のトンネルの中へと入ったような雰囲気になりますが、光射す出口へ喜び勇んで駆け出すように終楽章へ続きます。

第4楽章 Allegro-Presto この楽章から演奏にピッコロ・トロンボーン・コントラファゴットの3楽器が加わることで音響は段違いに増大し、まばゆい光に照らされたようなイメージ、まさに「勝利」といった印象をもたらします。ところで、これらの3楽器を交響曲のジャンルで使用したのは、ベートーヴェンのこの曲が初めてのことです。今でこそ、これらの楽器はオーケストラでのレギュラー楽器ですが、その礎を築いたのはベートーヴェンと言えるでしょう。曲は極めて輝かしく、たくましく進みますが、途中、3楽章のフレーズに戻り、暗黒のトンネルとそこから飛び出す過程をもう一度再現してみせる、という斬新な演出も為されています。コーダでは、テンポをどんどん速め、運命の動機を低音楽器で絡ませながら、圧倒的な高揚感とともに全曲を終結します。

【高響倶楽部法人会員】 ネットヨタ高松

香川県高松市香西南町 404-1
TEL : 087-882-7121 FAX : 087-882-7128
<https://www.happynetz.co.jp/pc/index.php>

各種行事の記録ビデオ制作をはじめ映像情報コンテンツの制作なら

株式会社 よんでんメディアワークス

TEL (087) 818-1071
FAX (087) 818-1072
URL <http://www.ymw.co.jp>
E-mail info@ymw.co.jp



スタインウェイピアノ 香川県正規特約店
有限会社 高松ピアノ工房
ピアノ・オーバーホール・調律・修理・レンタル
■ショールーム/
高松市木太町7区3685 TEL:087-833-6049
■工場/
高松市木太町7区3464 TEL:087-833-9433

楽器堂

GAKKIDO CORPORATION
ピアノ 管楽器 弦楽器 ギター ベース 打楽器 及び 楽器販売
オーバース イオンモール高松店 TEL:087-832-8016
音楽教室 英語教室 スタジオレンタル
オーバースクラブ イオンモール高松店 TEL:087-832-8018

音楽、始マル。 www.gakkido.jp

いい音楽との出会いを大切にします



T761-8012 高松市香西本町1-1 イオンモール高松1F